

# CORPORATE PROFILE

KDDI 会社案内  
2019-2020

Tomorrow, Together おもしろいほうの未来へ。



KDDIグループは、  
 全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、  
 お客さまの期待を超える感動をお届けすることにより、  
 豊かなコミュニケーション社会の発展に貢献します。

目次

新ブランディング	
企業理念・ブランドステートメント	2
経営戦略	
トップメッセージ	4
中期経営計画(2019-21年度)	6
特集 5G時代は、ここからはじまる	8
事業概要	
パーソナルセグメント	10
ビジネスセグメント	14
グローバル 信頼のネットワークで世界をつなぐ	18
持続的成長に向けて	
サステナビリティへの取り組み	20
スポーツ協賛	23
研究開発	24
会社情報	26



ブランドステートメント

未来は誰がつくるのだろう。  
 未来はどこからはじまるのだろう。

きっとそれは、どこかで知らない誰かがつくっているものじゃない。  
 向こうからやってくるのを待っているようなものでもない。  
 未来とは、いまを生きる私たちひとりひとりの中にこそあるのだ。

だからKDDIは、世界中の人々をつなぐ。  
 アイデアを、ビジネスを最短距離でつなぐ。  
 点と点のように散らばった可能性をつなぐ。  
 境界を超え、常識を超え、きのうまでの限界を超えて。

出会いはインスピレーションを生み、創造の起点となっていく。  
 私たちがつなげるものは、まだまだあるはずだ。  
 通信とライフデザインを融合させることによって、  
 この世界の成長を持続的で力強いものにしていこう。

その先にある未来がどんなものかは、  
 いまは誰にもわからない。  
 でもわからないものこそ、おもしろい。  
 情熱を共有し、互いに頼れるパートナーがいれば  
 どんな困難もエキサイティングなチャレンジになる。  
 ともに進もう。ともにこの変化を楽しもう。

誰かがつくる未来じゃなくて、  
 みんなでつくる未来のほうが、ワクワクする。  
 KDDIは、そう信じます。

さあ、一緒に。おもしろいほうの未来へ。

もしも道がふたつあったら、  
 いつもとは違う道をいこう。  
 まだ見たことのない景色が待っているはずだから。

もしもやり方がふたつあったら、  
 難しいほうを試してみよう。  
 成長した自分と出会えるはずだから。

もしも未来が選べるとしたら、  
 想像もしなかった未来を選ぼう。  
 そのほうが絶対にワクワクできるはずだから。

未来がいまの選択の結果として生まれるなら、  
 つまらない選択は つまらない未来しか連れてこない。  
 運命をちょっとだけ裏切ってみよう。  
 いつもの仲間だけでなく、あたらしい誰かと組んで。  
 境界や古くなったルールなんか、飛び越えて。  
 そこから何かはじまり、思いがけない物語が生まれる。

思い切って踏み出そう。  
 やりすぎなぐらいでちょうどいい。  
 世の中がおもしろすぎて困るひとなんか、きつくないから。  
 もっと自由な心で。もっと広い世界へ。  
 きのうまでの私たちが驚くような未来をめざそう。  
 そのときauは、みんなをつなぐ勇気のようなものになろうと思う。  
 通信とライフデザインを融合させて、  
 ひとりひとりの明日を輝かせる力になろうと思う。

一緒にならできる。一緒にいこう。みんなで。

Tomorrow, Together **KDDI**

おもしろいほうの未来へ。 **au**



代表取締役会長 田中 孝司

代表取締役社長 高橋 誠

# Tomorrow, Together

「通信とライフデザインの融合」を実現するとともに、  
社会課題の解決に取り組み、  
豊かなコミュニケーション社会の発展に貢献してまいります。

KDDIは、豊かなコミュニケーション社会の発展に貢献することを企業理念とし、重要なライフラインを担う通信事業者の使命として強靱で高品質な通信の維持に努めると同時に、さまざまなパートナー企業とともに、お客さまへ新たな体験価値の提案を行ってまいりました。

世の中を取り巻く環境は大きな変革期にあり、5G(第5世代移動通信システム) / IoT、AI・ビッグデータをはじめとした技術の進展により本格的なデジタル化が進み、データにさらなる価値を見出す「データ駆動型社会」へと変容しています。また、政府は、これらの先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会課題の解決を両立していくSociety 5.0<sup>※1</sup>の実現を目指しています。こうした中、通信業界においては、新規通信事業者の参入などにより競争環境が激化するとともに、通信・インターネットの活用で全ての産業が変革するデジタルトランスフォーメーション(DX)の時代を迎え、事業環境は大きく変化しています。

KDDIは、このような事業環境の変化に迅速に対応しながら持続的な成長を実現するため、次の3年に向けた「中期経営計画(2019-21年度)」を策定しました。個人のお客さまには、通信とさまざまなライフデザインサービスを併せてお使いいただくことで、お客さまとのエンゲージメントの深化を図り、グループ会社を含むお客さま数(ID)×総合ARPA×ご利用期間(継続率)の総和である「ライフタイムバリュー」の最大化につなげていきます。法人のお客さまには、KDDIの持つIoT・ICT関連の技術・ノウハウを生かしてお客さまのDXをサポートすることで、お客さまの本業に貢献するとともに、パートナー企業とのオープンイノベーションにより新たなビジネスを創造し、パートナー企業と一緒に成長していくビジネスモデルを展開してまいります。通信サービスを中心に、成長事業を拡大していくことで、事業戦略の核となる「通信とライフデザインの融合」をより一層推し進め、国内はもとよりグローバルにおいても、5G/IoT時代における新たな価値創造を実現してまいります。

この中期経営計画の策定に合わせ、新しい時代にKDDIが“お客さま・社会にとってどのような存在になりたいか”を問い直し、KDDIブランドスローガンを「Tomorrow, Together」に一新しました。

また、社会の持続的な成長に貢献するため全社でサステナビリティ活動を推進しており、「中期経営計画(2019-21年度)」では、「KDDIが目指すSDGs<sup>※2</sup>」を策定しました。事業戦略に連動する目標と企業活動に連動する目標の達成に向けて社会課題の解決に取り組むことで、社会とともに持続的な成長を目指してまいります。

今後とも、KDDIグループへの変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2019年5月  
代表取締役社長 高橋 誠

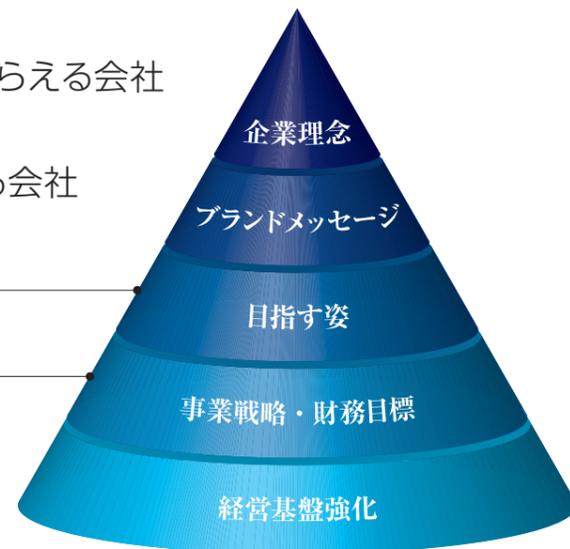
※1 日本の中長期的な成長戦略の一つで、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより目指すべき人間中心の社会

※2 「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略で、2015年9月に国連サミットで採択された国際目標

KDDIはこれまで、持続的な利益成長と株主還元強化を掲げ、お客さまの期待を超える「お客さま体験価値」を提供するビジネスへの変革の推進により、強固な顧客基盤を確立し、着実に成長してきました。今後は、5Gをはじめとした技術の進展により本格的なデジタル化が進むほか、競争環境の大きな変化が見込まれます。このような時代の変化に迅速に対応し、当社の目指す「通信とライフデザインの融合」を実現するために、次の3カ年に向けた「中期経営計画 (2019-21年度)」を策定しました。

目指す姿

- ① お客さまに一番身近に感じてもらえる会社
- ② ワクワクを提案し続ける会社
- ③ 社会の持続的な成長に貢献する会社

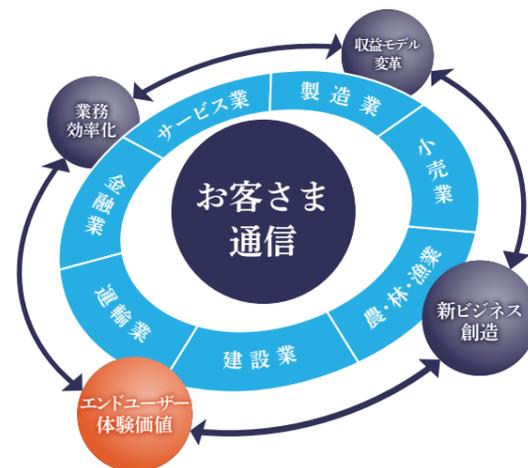
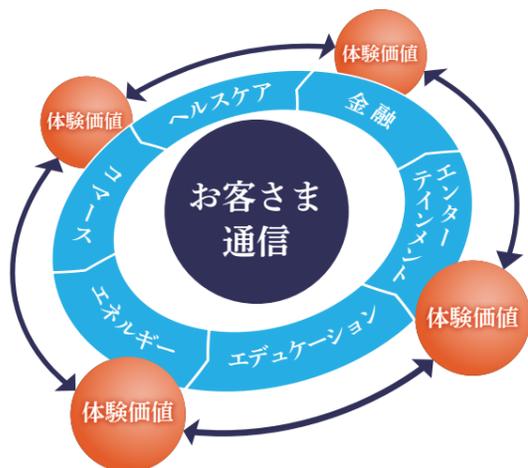


事業戦略

KDDIは、通信を中心に周辺ビジネスを拡大する「通信とライフデザインの融合」をより一層推進し、国内はもとよりグローバルにおいても、5G/IoT時代における新たな価値創造を実現するため、次ページの7つの事業戦略に沿って持続的な成長を目指します。

個人のお客さまに向けて

法人のお客さまに向けて



1

5G時代に向けたイノベーションの創出

次世代の社会基盤インフラとなる5Gを積極的に展開し、さまざまなパートナー企業との共創によるビジネス開発、スタートアップ企業の斬新なアイデアや先進的なテクノロジーを取り入れたオープンイノベーションによって、新たな体験価値を創造するとともに、5Gを地方創生事業でも積極的に活用していきます。



2

通信とライフデザインの融合

基盤となる通信を核に成長事業の拡大を目指します。個人のお客さまには、スマートフォンを起点に「ワクワク」する体験をご提案し、法人のお客さまには、本業貢献をキーワードに、ともに新たなビジネスモデルを構築し、デジタルトランスフォーメーション推進をサポートしていきます。



3

グローバル事業のさらなる拡大

国内コンシューマビジネスで培った通信事業、ライフデザイン事業における知見・ノウハウをミャンマー・モンゴルにおけるコンシューマビジネスに活用していくほか、成長の余地があるアジア域での市場拡大を目指していきます。また、法人ビジネスにおいては、国内・海外の総合的なIoTプラットフォームであるKDDI「IoT世界基盤」やデータセンター事業を軸に、グローバル・国内一体でのグローバルICT事業のさらなる拡大を図っていきます。



4

ビッグデータの活用

データの活用によって、お客さまを徹底的に理解し、お客さま視点に立った「心地よい提案」を通じた体験価値の最大化を図っていきます。また、今後5G/IoTによって、モノのデジタル化・ネットワーク化が急速に拡大することから、さまざまな産業におけるビッグデータを用いることでお客さま企業のデジタルトランスフォーメーションを推進していきます。



5

金融事業の拡大

生活の中心となったスマートフォンを通じ、お客さまの日常生活における決済・金融サービスをより身近に、スマホ・セントリック(中心)な金融体験を提案することで、お客さまとのエンゲージメント強化と利益成長を目指していきます。



6

グループとしての成長

当社のアセットを最大限活用し、グループ会社の成長を支援することで、相互シナジーの最大化とグループ全体での新たな成長基盤の拡大・強化を目指していきます。



7

サステナビリティ

事業や企業活動を通じて取り組むSDGs目標を定め、全社でサステナビリティ活動を推進していきます。通信、グローバル、地方創生、教育、金融などの事業戦略に連動する目標と人財育成、女性活躍推進、人権・D&I<sup>®</sup>、地球環境などの企業活動に連動する目標の達成を通じて、社会とともに持続的な成長とさらなる企業価値の向上を目指していきます。



※ ダイバーシティ&インクルージョン

# au 5G

## 5G時代は、ここからはじまる

KDDIは、2020年3月から第5世代移動通信システム「5G」（以下 5G）サービスを開始します。5Gの新たな通信方式の特性をフルに活用し、ライフデザインサービスとの融合によりお客さまにワクワクする体験価値をお届けしていきます。

あらゆるパートナーの皆さまと一緒に新たなサービスを提供し、お客さまのデジタルトランスフォーメーションのサポートを推進するとともに、地方創生への5G活用なども重要な課題と捉え、積極的に取り組んでいきます。

### 5Gの周波数とエリア展開計画

2019年4月、5G用の周波数が総務省より携帯電話事業者4社に割り当てられました。KDDIが獲得した周波数は3.7GHz帯が2枠と28GHz帯が1枠で、これらは5Gを先行導入している北米や韓国でも利用されています。世界中で使われるこの周波数によって、KDDIはより早く、多くのお客さまに5G体験を提供できるようになります。また、5Gの屋外基地局は、2024年度までに事業者最多の42,863局を開設する予定で、基盤展開率は93.2%と、積極的なエリア展開を行っていきます。



### コンシューマ向け

## au UNLIMITED WORLD

### データフリーな世界へ

KDDIでは2019年7月、日本初のデータ容量上限なしの料金プラン「auデータMAXプラン」の提供を開始しました。つながり続ける時代、料金を気にせずさまざまなサービスをご利用いただける生活を見据え、5Gのサービス開始を待たず、4Gで先駆けて提供しています。



KDDIは、「UNLIMITED WORLD」というメッセージを掲げ、他社に先駆けて「データや体験の制約から解放されワクワクを感じる世界」をお届けしていきます。

### ワクワクを感じる世界へ

データの制約から解放されると、ARやVR、自由視点映像など、さまざまな技術が活性化される世界が広がっていきます。KDDIは、このような技術を組み合わせ、さまざまな場所で今よりももっとエキサイティングな体験をお届けし、お客さまにワクワクを提案していきます。



### 法人向け

5G時代はあらゆるモノがつながり続け、通信が溶け込む時代へ変わっていきます。センシングデバイスやIoTで得たデータは、AIやパーソナライゼーションで活用され、より良いサービスを継続的に提供することができ、お客さまともより深い関係になることができます。そうした時代を実現するためのカギが「トラステッド&イノベティブ」です。

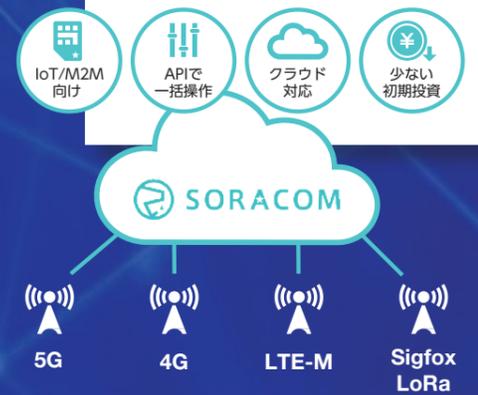
### トラステッド(信頼)

KDDIは、約20年のIoTビジネスの提供実績があり、信頼性の高い通信ネットワークを提供し続けてきました。2002年からはトヨタ自動車と「つながるクルマ」の取り組みを進めており、車両データを分析・活用することで、24時間365日の安心をお届けしています。



### イノベティブ(革新)

KDDIはグループ会社であるソラコムと最先端のテクノロジーについて検討を進めています。アマゾン ウェブ サービス (AWS) のクラウド上にモバイルコアネットワークを構築し、1.5万の事業者がIoTサービスを利用しています。



◀KDDIは2002年からトヨタ自動車へテレマティクスサービス向け通信を提供

新ランディングページ  
経営戦略  
事業概要  
持続的成長に向けて  
会社情報

## パーソナルセグメント

お客さまと一緒に  
もっとおもしろいほうの未来へ



Personal Segment

## 通信とライフデザインの融合で お客さまの生活をもっと楽しく、もっと便利に

auなら、いつでもさまざまな場所で快適なネットワークを通じて、あらゆるコンテンツをお楽しみいただけます。通信サービスを中心にお客さまの日常を楽しく、便利にするライフデザインサービスをより充実させることで、お客さまに心地よい体験をお届けします。

### 一人ひとりの生活にワクワクを

個人のお客さまを対象に、スマートフォン・携帯電話などのモバイル通信サービスや「auひかり」をはじめとする固定通信サービスを提供しています。また、モバイルではauブランドに加えてUQコミュニケーションズなど、グループ会社におけるMVNOサービスも提供しています。

今後、通信サービスとコマース、金融、エネルギー、エンターテインメント、教育などのライフデザインサービスをより一層拡充・融合し、お客さまに楽しく、便利で、新しい体験価値を提供していきます。そのためにさまざまなデータを分析することでお客さまのニーズを理解し、心地よい提案を届け、お客さまの一番身近な存在を目指していきます。

お客さまの使い方に合わせて料金プランとどこまでもお客さまに寄り添うサポート。そしていつでもつながるネットワーク。  
auには「おトク」と「あんしん」が満載。

### お客さまに選ばれる料金プラン

2017年、スマートフォンなどの携帯端末代金と通信料金を分離し、ご利用のデータ通信量に合わせて選べるおトクな料金プラン「auピタットプラン」「auフラットプラン」を業界で初めて導入し、ご好評をいただいています。2018年からは、動画コンテンツを楽しみたい方向けにNetflixをセットにしたおトクな料金プランや、音楽を中心に楽しみたい方向けにApple Musicと連携するなど、使い方に応じて最適な料金プランをお選びいただけるよう拡充しています。auは、2000年にガク割、2003年にパケット定額制を導入するなど、常にお客さまの利用状況の変化に応じた料金プランを他社に先駆けて提供し続けており、その姿勢は脈々と受け継がれています。

### 充実のサポート

auは電話やメールでのお問い合わせ受け付けはもちろん、有料会員制で専任のアドバイザーが使い方をサポートする「auスマートサポート」や、Twitter上でお困りごとの解決をアドバイスする公式アカウントも開設しています。

また、Web上でご利用料金やご契約内容の確認ができる「My au」は、スマホ向けアプリの機能も拡充しており、アプリからメッセージ機能を使って24時間お問い合わせいただくことが可能です。また、端末の紛失・盗難、故障時の補償サービスもさまざまなケースを想定して用意していますので、いつでも安心してご利用いただけます。

### 高品質なネットワーク

auのモバイル通信を支える4G LTEネットワークは、800MHzプラチナバンドで人口カバー率99%超\*のサービスエリアで提供しています。加えて、都市部の駅周辺や観光地、スポーツ・ライブイベント会場などが大勢集まる場所には、個別の対策を実施してつながりやすさを確保し、信頼性の高いネットワーク品質を実現。この高品質ネットワークを基盤に次世代通信規格5Gのネットワークを構築し、いつでも快適なコミュニケーション環境で5Gならではの、より楽しく、新しい体験をお客さまに提供していきます。

\*人口カバー率は国勢調査に用いられる約500m区画において、50%以上の場所で通信可能なエリアを基に算定しています。



※2019年8月末の情報です。新規受付を終了したサービス・プランを含みます。最新の情報はauホームページでご確認ください。

## スマホ・セントリックで金融サービスをライフデザインの中核に ～キャッシュレス社会をより便利に、より安心に～

### スマートマネー構想

KDDIは、スマートフォンを中心とした「スマホ・セントリック」な決済や金融などのサービスを総合的に提供する「スマートマネー構想」を推進しています。「スマートマネー構想」とは、「au WALLET」を軸に「貯める」「支払う」「殖やす」「借りる」「備える」「計画する」などの金融サービスをワンストップで提供することによって、スマホ金融をより身近なものにし、お客さまとのエンゲージメントをさらに強化するものです。auの通信・ライフデザインサービスのご利用に応じて自然に貯まるau WALLET ポイントを強みにau経済圏のさらなる拡大を目指します。

### 入り口は「au WALLET アプリ」

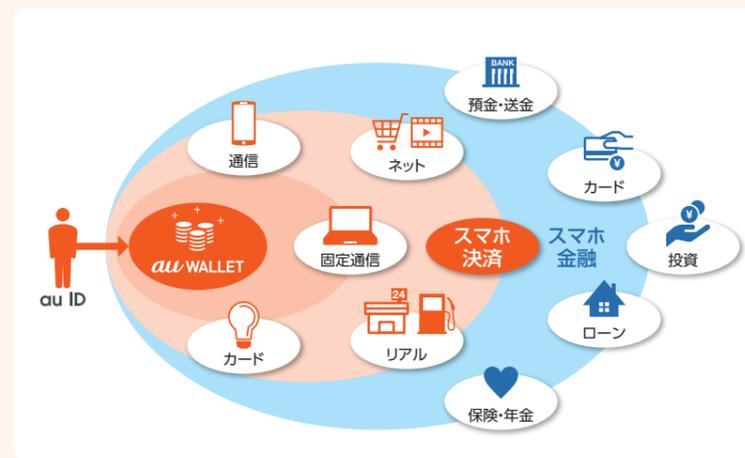
au WALLET アプリが全ての金融サービスの入り口となり、金融事業を拡大していきます。アプリ上からau WALLETのチャージ金額やポイントの残高を確認できるなど従来の機能に加え、貯まったポイントを直接チャージできる機能、au PAYによる決済、じぶん銀行口座から送金・払い出しが利用できるなど、全ての金融サービス

がアプリ上から利用できるようになっており、今後もau WALLET アプリを入りに金融サービスをお客さまに提供していく予定です。

### スマートマネー構想の実現に向けて

KDDIは、従来から金融サービスに積極的に取り組んできました。2008年に「じぶん銀行」を設立、2010年に導入した「auかんたん決済」は、デジタルコンテンツやショッピングの代金をau通信料金と合算して支払うことを可能とし、2014年に「au WALLET」、2016年には「auのほけん・ローン」、2018年に「auのiDeCO」の提供開始など、サービスを拡充してきました。

2019年4月には、決済・金融事業のさらなる強化を目的として中間金融持株会社「auフィナンシャルホールディングス」が業務を開始し、「じぶん銀行」「KDDIフィナンシャルサービス」「ウェブマネー」「auアセットマネジメント」「au Reinsurance」を傘下に移管、スマートマネー構想の実現に向けた体制を整備しました。なお、今後は傘下各社の社名をauブランドに統一することで、スマートマネー構想のさらなる推進を目指していきます。



▲スマートマネー構想



▲au WALLET アプリ (画面はイメージです) ▲au PAY (画面はイメージです)

### エンターテインメントサービスの拡充

2019年11月以降、「auスマートパス プレミアム」は、映像・音楽・書籍サービスなどのデジタルコンテンツやライブチケットの先行予約などの特典を大幅に拡充し、「エンタメ楽しみ放題」サービスとして進化します。また、データ容量に上限なくNetflix「ベーシックプラン」とセットでご利用いただける新料金プラン「auデータMAXプラン Netflixパック」を発表しました。今後、より一層お客さまの生活が楽しくなる、さまざまなサービスや体験を実現していきます。



### 生活を豊かにするauのスマートホーム

日常生活を便利にするIoT技術が広がり始めています。「au HOME」は、センサーやカメラによるペットのみまもりや、スマホアプリによる家電操作で暮らしを安心・便利にするIoTサービスです。また「au でんき」は、月々の電気代をおトクにするだけでなく、スマホアプリを使って電気の使用状況が一目で分かるほか節電アドバイスも受けられます。auはさまざまなモノがインターネットにつながる技術でスマートホームを実現しています。



### 教育×5G・IoT

auのライフデザインサービスは教育の分野にも広がっています。こどもの職業・社会体験施設「キッズガニア」を運営するKCJ GROUPと包括的なパートナーシップを構築し、こどもたちの生きる力を育むために学びの場と5G/IoTなどの先端技術を融合していきます。また、英会話のAEONでは、au (KDDI) の持つICTやデータ解析技術を生かし、学習効率の最大化・英語学習を快適に行える場の実現のため、「EdTech」を推進しています。



### 世界に広がるauのサービス・技術

日本国内で培ったauサービスの事業経験やノウハウ、信頼性の高い技術力を世界に展開し、海外のお客さまにもご満足いただいています。ミャンマーにおけるミャンマー国営郵便・電気通信事業者(MPT) および住友商事との共同事業や、モンゴルにて設立当初から出資しているモビコムでは、売上・シェアともにNo.1の総合通信事業者としてサービスの向上やエリア拡大を進めています。



▲ミャンマーのMPT Shop Myanmar Plaza店



▲モンゴルのMobiComフラッグシップショップ

## ビジネスセグメント

お客さまとともに  
ビジネスの成長と発展の未来へ



Business Segment

## お客さまのビジネスに貢献する 真のビジネスパートナーに

多様な価値観を持つパートナーとの連携による新たなビジネス価値の創出、これがKDDIの考えるデジタルトランスフォーメーション (DX) です。KDDIグループの持つネットワーク・テクノロジー・ノウハウを結集し、5G/IoT時代のお客さまのビジネスを全力でサポートします。

### ALL KDDIでお客さまのビジネスに貢献

KDDIは強靱で高品質な通信インフラをベースに斬新で最適なソリューションを提案してきました。これから始まる5G/IoT時代においては、通信とセンシングの進化によって顧客と企業の関係性が再構築されるといわれています。センシングと通信で得たデータをAIやパーソナライゼーションに活用することで、よりよいサービスを継続的に提供することが可能となり、リカーリングモデル (循環型ビジネス) へと変革が進んでいくからです。KDDIグループは、信頼性の高いネットワーク上にAI・IoT・セキュリティ・データ分析などグループの持つリソースを結集し、お客さまのビジネスの変革に全力で貢献し続けます。

### IoTでビジネスの発展を

KDDIは、IoTを推進する上で欠かせないセンサー、ネットワークインフラからデータの蓄積、見える化、分析までワンストップで提供しています。お客さまのニーズに合わせたIoTソリューションメニューを揃えるほか、auスマートフォン位置情報を利用したデータをお客さまがご持ちのデータと組み合わせることで、お客さまビジネスの課題解決や変革を共に推進します。鯖の養殖管理、AI灌水施肥 (かんすいせい) システム、ランドセルとIoTを連携した児童のみまもり、工場設備の故障予兆の検知などに加え、空港や整備工場で実用化を目指した検証を進めています。今後、さまざまな課題解決の積み重ねでお客さまのご期待に応えていきます。

## グローバルビジネスを支援するKDDI「IoT世界基盤」

KDDI「IoT世界基盤」は、IoTデバイスを通じて収集したデータを蓄積・分析する「データサービス」、ニーズに合わせた通信回線と回線管理環境を提供する「コネクティビティサービス」、各国の周波数や関連法規制を調査・IoTデバイスに関わる認証取得を代行する「プロフェッショナルサービス」を中心にさまざまなパートナー企業のアセットを組み合わせ、お客さまのグローバル展開を支援するビジネスプラットフォームです。



KDDIは、2016年からトヨタ自動車と共同で「つながるクルマ」コネクティッドカーに必要な車載機器とクラウド間における、高品質で安定した通信を提供するためのグローバル通信プラットフォームの構築を推進しています。このグローバル通信プラットフォームを応用・発展させ、KDDIでは2019年5月からKDDI「IoT世界基盤」のトライアル受付を開始しました。

KDDI「IoT世界基盤」は、ローミングを含む最適なネットワークの選択と提供、日立製作所、東芝との協業によるデータ蓄積・分析機能の提供、関連法規やデバイス認

証などに関するサポート提供などを通じ、さまざまな産業においてお客さまのグローバルでのIoT活用にご貢献します。さらに、5Gなどの先端技術とさまざまな産業を組み合わせ、企業のリカーリングモデル (循環型ビジネス) への転換を強力にサポートします。

また、KDDIグループのソラコムとの連携も行い、120を超える国や地域でIoTを利用可能としており、この強みを生かしてグローバルなビジネスのさらなる拡大を目指します。



## 多様なパートナー企業とイノベーションを創出

KDDIは、オープンイノベーションに積極的に取り組んでいます。大企業やスタートアップ企業、地方自治体など多様なパートナーとのコラボレーションにより、5G/IoT時代に向けた新たな事業戦略やビジネスモデルを描き、新規事業・新サービスを次々に生み出すことでお客さまと共に持続的成長を目指しています。

### KDDI DIGITAL GATE



「KDDI DIGITAL GATE」は、デジタル変革を実現するために法人のお客さまとチームを組み、アジャイル開発を通じてエンドユーザーの潜在的な課題を発見し、最先端のデジタル技術を用いて課題に対するソリューションを素早く構築・検証する、5G/IoT時代のビジネス開発拠点です。

KDDI DIGITAL GATE には、5G、IoT、AR、VR、AIなどのデジタル技術によって実現するさまざまなソリューションを体感いただけるスペース、デザイン思考をベースとした共創ワークショップを行う専用のスペース、アジャイル開発チームが常駐して集中的に開発を行う複数の開発ルームなどを備えています。

KDDIグループ全体でこれまで積み上げてきたアセットを結集し、ビジネスとデジタルを融合させた新しいサービスを素早く構築できる強みを生かし、2018年9月の開設以来200社を超える\*お客さまにご利用いただいています。

2019年9月、KDDI DIGITAL GATEを大阪、沖縄に拡大し、地域企業の新規事業創出を強力にサポートする体制を整えました。

\*2019年6月末時点



### JAL×KDDI DIGITAL GATE

日本航空とKDDI DIGITAL GATEは、3カ月で従業員向けの新しいサービスのデザインとプロトタイプ開発・検証を実施しました。最初の2カ月間でのワークショップやユーザーインタビューにより、開発するサービスデザインを行い、その後アジャイル開発の手法を使って1カ月間で4回のイテレーション(反復開発)を実施し、プロトタイプを開発しました。こうした実績のもと、2019年6月、両社は5G/IoTを活用した航空関連サービスの共同開発に向けた提携の強化に合意しました。今後、空港や整備工場などでの5Gの実用化を目指した新たなビジネス検証や5Gとほかのテクノロジーを融合した新たなサービスの研究開発を共同で推進していきます。

## スタートアップ企業とのパートナーシップで事業創出

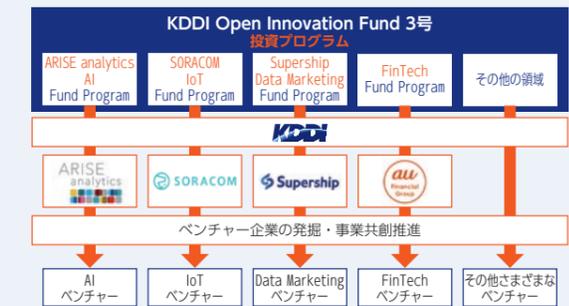
KDDIは、新しいサービスを推進するスタートアップ企業と共に、社会にインパクトのある新たな事業の創出を目指す「事業共創プラットフォーム」[KDDI ∞(ムゲン)ラボ]を2011年に開始し、これまでに66社\*1と連携してきました。KDDI∞Laboでは、KDDIとの事業創出に加えて、鉄道や金融、不動産といった多様な領域の大企業33社とスタートアップ企業を結びつけ、これまでに50以上の提携事例を生み出しています。

コーポレート・ベンチャー・キャピタル「KDDI Open Innovation Fund (KOIF)」によるスタートアップ企業への投資も2012年の設立以来、60社\*1に上っています。2018年に設立した「KOIF3号」では、AIやIoT、ビッグデータなど、5G時代に重要性が高まる分野に対して取り組みを強化し、有望なベンチャー企業を発掘する体制を整えています。

また、スタートアップ企業を対象に調査した「イノベティブ大企業ランキング\*2」でKDDIは2年連続で1位に選出されています。オープンイノベーションに積極的な姿勢がスタートアップ企業に高く評価されています。

\*1 2019年6月末時点

\*2 イノベーションリーダーズサミット(ILS)実行委員会調査



▲KDDI Open Innovation Fund 3号

## 地域とのパートナーシップで地方創生を推進

### 地域の課題解決

事例 1 長野県伊那市  
ドローン物流事業構築プロジェクト

近年の人口減少や少子高齢化により、中山間地域の物流や交通機能が脆弱化し、高齢者を中心に日用品の買物に苦労している方が増加しています。こうした課題の解決に向けて、2018年度より、ドローンを活用した新たな物流システムの構築「空飛ぶデリバリーサービス構築事業」プロジェクトを長野県伊那市より受託しました。

本プロジェクトを通じて、4G LTEを活用した「スマートドローンプラットフォーム」により、河川上空を活用したドローン物流事業の構築を進めています。



▲日用品を運ぶスマートドローン

事例 2 「Kidsジョブチャレンジ2019in平戸  
～アウトオブキッズニア～」ブース出展

2019年3月、長崎県平戸市が開催し、KDDIグループのKCJ GROUPが監修している「Kidsジョブチャレンジ2019in平戸～アウトオブキッズニア～」にKDDIもブースを出展しました。

最新技術を用いて地域課題の解決策を創造することもたちを育てるために、「未来のお仕事体験ブース」を出展。プログラミングを行ったドローンによるイチゴ畑の生育状況確認や、平戸市内の観光地を自走式モビリティで巡る未来の観光体験を通じ、地域にある職種と魅力の再発見とともに、一次産業の新しい可能性を学ぶ場を提供しています。



▲ドローンのプログラミングを行うこどもたち

# 信頼のネットワークで世界をつなぐ

KDDIは日本の国際通信のパイオニアとして、前身である国際電信電話(KDD)設立以来、60年以上にわたり、日本と世界190カ国以上を通信でつないできました。無線・衛星・海底ケーブルなどで構築されたKDDIの高品質で高信頼度の国際通信ネットワークは、ビジネスや暮らしにおいて快適なコミュニケーション社会を支えています。



- ヨーロッパ・アフリカ**
- KDDIヨーロッパ
  - KDDIドイツ
  - KDDIフランス
  - KDDIロシア
  - Telehouseヨーロッパ
  - Telehouseドイツ
  - Telehouseモスクワ
  - Telehouseイスタンブール
  - Telehouseケーブタウン
  - Telehouseヨハネスブルグ
  - KDDI 欧州調査事務所

- アジア・オセアニア**
- KDDI中国
  - KDDI上海
  - 上海凱訊通信工程有限公司
  - KDDI広州
  - KDDI香港
  - KDDI台湾
  - KDDI韓国
  - Telehouse北京
  - Telehouse北京BDA
  - Telehouse上海張江
  - Telehouse上海金橋
  - Telehouse香港CCC
  - KDDI 北京代表所
  - KDDI 上海駐在員事務所
  - KKBOX

- KDDIシンガポール
- KDDIタイランド
- KDDIマレーシア
- KDDIインド
- KDDIフィリピン
- KDDIベトナム
- KDDIオーストラリア
- KDDIインドネシア
- KDDIミャンマー
- Telehouseベトナム
- モビコム
- KDDI Summit Global Myanmar
- FunCreate Myanmar
- ブラックネット

## アメリカ

- KDDIアメリカ
- KDDIブラジル
- UBIK ブラジル
- Telehouseアメリカ

1953年	● 国際電信電話株式会社 (KDD) 設立
1956年	● 東京～サンフランシスコ間に最初の国際テレックス回線開設
1963年	● 茨城宇宙通信実験所で日米間初のテレビ中継受信に成功
1964年	● 第1太平洋横断ケーブル(TCP-1)開通 ● 国際電気通信衛星機構(インテルサット)に加盟
1966年	● 茨城衛星通信所開所、日米間テレビ伝送開始
1969年	● 山口衛星通信所開所、日欧間に衛星回線開設
1973年	● 国際ダイヤル通話開始
1977年	● 国際海事衛星機構(インマルサット)に加盟
1989年	● 米国・ニューヨーククエア初のデータセンター「Telehouse」を設立 ● 太平洋で初の光海底ケーブル、第3太平洋横断ケーブル(TPC-3)開通
1990年	● 英国・ロンドンに「Telehouse」を設立
1995年	● モンゴルのMobiComに出資
1999年	● フランス・パリに「Telehouse」を設立
2000年	● 香港に「Telehouse」を設立
2001年	● 世界で初めて、企業向け国際IP-VPNサービスを開始
2007年	● 中国・北京に「Telehouse」を設立
2008年	● シンガポールに「Telehouse」を設立
2009年	● アフリカ大陸に初の「Telehouse」データセンターを設立
2010年	● ベトナム・ハノイ、中国・上海に「Telehouse」を設立 ● 日本～米国間光海底ケーブル「Unity」運用開始
2012年	● 日本～ロシア間光海底ケーブル「RJCN(Russia-Japan Cable Network)」により、日本～欧州間最短ルートの提供開始 ● ドイツ・フランクフルト、ロシア・モスクワに「Telehouse」を設立
2014年	● ミャンマーの通信事業に参入
2016年	● 日本～米国間光海底ケーブル「FASTER」運用開始 ● 英国・ロンドンに5つめとなるデータセンター「Telehouse London Docklands North Two」を設立

## 世界規模のビジネスをICTでサポート

KDDIグループは、海外62都市100以上におよぶKDDIの海外拠点を通じて、世界規模でビジネスを展開する企業のICTをサポートしています。特に「Telehouse」ブランドで展開するデータセンターは世界12の国と地域、20都市で、40拠点以上に拡大。30年にわたるKDDIグループのデータセンターの運用と信頼の実績は、世界有数のIX、通信事業者、クラウド事業者から高い評価を得、ビジネスプラットフォームの核として3,000社以上のお客さまにご利用いただいています。



▶ 欧州最大規模のTelehouse London Docklands North Two

## サステナビリティへの取り組み



Sustainability

# お客さま・社会を通信でつなぐ、 そしてともに未来へ

強靱な通信インフラと先端テクノロジーの活用で、お客さまのコミュニケーションを支え、社会が抱えるさまざまな課題の解決に貢献することで、すべてのステークホルダーの皆さまから愛され、信頼される企業を目指します。

### 社会の持続的な成長に貢献するために

KDDIは、「豊かなコミュニケーション社会の発展に貢献する」という企業理念のもと、社会の情報基盤を支えるインフラ企業として社会課題の解決に取り組んできました。中期経営計画(2019-21年度)では、「社会の持続的な成長に貢献する会社」を新たに企業の目指す姿に掲げ、事業戦略・企業活動に連動した「KDDIが目指すSDGs」を策定して、事業を通じ全社を挙げて社会課題の解決に取り組んでいくことを宣言しています。これらの基盤となるのが、これまで取り組んできた6つのサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)です。

#### 6つのサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)

1	 安全で強靱な情報通信社会の構築	4	 多様な人財の育成と働きがいのある労働環境の実現
2	 情報セキュリティの確保とプライバシーの保護	5	 人権尊重と公正な事業活動の推進
3	 ICTを通じた心豊かな暮らしの実現	6	 エネルギー効率の向上と資源循環の達成

### サステナビリティ活動の着実な推進に向けて

KDDIは、サステナビリティ活動を着実に推進するために「中期経営計画(2019-21年度)」で「KDDIが目指すSDGs」を策定しました。通信、グローバル、地方創生、教育、金融などの事業戦略に連動する目標と、人財育成、女性活躍推進、人権・D&I(ダイバーシティ&インクルージョン)、地球環境などの企業活動に連動する目標の達成を目指し、全社を挙げて社会課題の解決に向け中長期的に取り組んでいます。

#### ■KDDIが目指すSDGs

事業を通じて解決する社会課題	SDGs対比	企業活動を通じて解決する社会課題	SDGs対比
通信 安全で強靱な情報通信社会の構築	9 産業・インフラの革新, 13 気候変動に具体的な対策を	人財育成 専門性向上と自律的なキャリア形成の実現	4 質の高い教育をみんなに
グローバル インフラ整備が不十分な国々の経済発展を促進	9 産業・インフラの革新, 10 人や国の不平等をなくす	女性活躍推進 多様性を重視した職場の実現	5 ジェンダー平等を実現しよう
地方創生 誰もが暮らしやすいまちづくり	8 持続可能な成長を創出しよう, 9 産業・インフラの革新, 11 持続可能な都市を創出しよう	人権・D&I 多様な働き方の実現	8 働きがい、経済成長、社会正義
教育 次世代を担う人材の育成	4 質の高い教育をみんなに, 10 人や国の不平等をなくす	地球環境 サステナブルな地球環境に貢献	13 気候変動に具体的な対策を
金融 誰でも手軽に使える金融サービス	8 持続可能な成長を創出しよう, 9 産業・インフラの革新	パートナーシップ ステークホルダーとのパートナーシップを通じて社会課題の解決に貢献	17 持続可能なパートナーシップを促進しよう

#### 事例1 24時間365日、安定した通信サービスを提供

KDDIは、社会インフラを担う通信事業者として、24時間365日、いかなる状況においても、安定した通信サービスを提供する責務があります。災害に強いネットワークの構築、災害対策訓練の継続実施など、大規模災害発生時のあらゆる事態を想定し、準備と対策を日々実施しています。災害発生時には「車載型基地局」をはじめとする、一時的に通信エリアを確保する手段を準備しています。2018年の北海道胆振東部地震の際は、海上から通信エリアをカバーするため「船舶型基地局」を日本で初めて運用しました。さらに陸路・海路が使えない場合に備えて、空路を使う「無人航空機(ドローン)型基地局」を開発し、実用に向けて検証を進めています。



▲船舶型基地局を搭載したケーブルシップ「KDDIオーシャンリンク」



▲船舶型基地局

#### 事例2 情報格差の解消に向けて

KDDIはミャンマー、モンゴルでの通信事業による社会インフラとしての通信ネットワーク構築のほか、KDDI財団を通じてインフラ整備が不十分な国々の地域社会の発展に貢献しています。カンボジアにおいて、2005年から2018年までの14年間で11校の学校が開校し、一部ではPCを利用した授業が実施されています。

また、2018年、ネパール西部のダル地区にて、「海底用ケーブルとほぼ同様の構造の頑丈なケーブルを使用し、管路を用いずに低コストで陸上に敷く」というITU-Tの標準化勧告(L.1700とL.110)に沿って敷設した光ファイバーとWi-Fiを組み合わせた広帯域な地域ネットワークを構築。今後、遠隔医療などの実現が期待されています。

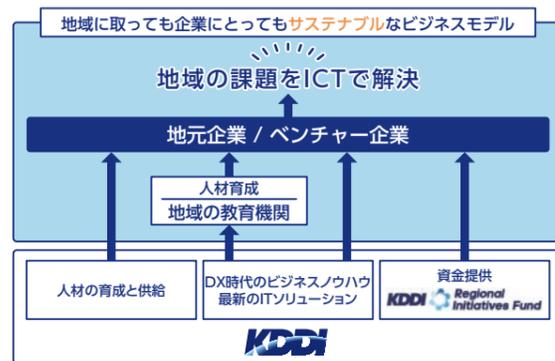


▲自治体ボランティアによるケーブル敷設工事

事例 3 地域主体の持続的な地方創生を実現

KDDIは、地域課題の解決を持続的なものにするためには、それを現地で継続的に支える地域の企業や人材が必要であり、その育成こそが「カギ」だと考えています。

KDDIは5G、IoT、ドローンなどのテクノロジーや、DX（デジタルトランスフォーメーション）時代のビジネスノウハウを、地域の教育機関との連携などを通じて提供することで、地域の企業・人材の育成を進めていきます。また、地方創生ファンド [KDDI Regional Initiatives Fund] からの資金提供を通じ、地方創生を推進する地域の企業やベンチャー企業を支援します。



事例 5 D&I(ダイバーシティ&インクルージョン)の推進

「KDDIフィロソフィ」では、目指す姿の1項目に「ダイバーシティが基本」を掲げています。性別・年齢・国籍・障がいの有無・性的指向・信仰など、多様な個性や価値観を互いが尊重し、理解し合うことが、会社の持続的成長に不可欠であると明記し、多様な人材が互いに認め合いながらともに活躍できるよう、D&I推進に取り組んでいます。KDDIの特例子会社 [KDDIチャレンジド] では、障がいのある従業員各々の「できる」に着目し、それぞれの状況に適した労働環境を整備することで、一人ひとりが活躍できる業務・職域の拡大・創出を目指しています。また、外国人、シニア、LGBTの活躍支援や多様な働き方の推進など、誰もが働きやすく活躍できる職場環境を整備しています。

事例 4 健康でイキイキと働く環境の醸成

KDDIでは、「KDDIグループ 健康経営宣言」に基づき、社員の「健康」を重要な経営課題ととらえ、社員一人ひとりの健康を組織で支える健康経営を推進しています。社員が健康でイキイキと働く風土・文化を醸成し、個人と組織のパフォーマンスを最大化し、企業の持続的な成長を支えています。

KDDIグループ健康経営宣言

KDDIグループは、社員が幸せで、活力ある企業であり続けるためには、社員の「健康」が重要な経営課題と捉え、「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、お客さまの期待を超える感動をお届けすることにより、豊かなコミュニケーション社会の発展に貢献します」との企業理念のもと、社員一人ひとりの健康を組織で支える健康経営を推進し、豊かな未来に挑戦し続けることを宣言します。

- 1 社員自身が自律的に健康の保持・増進に取り組むことを積極的に支援します。
- 2 社員と社員の家族が笑顔で過ごせるよう、会社・KDDI健康保険組合・KDDI労働組合が一体となって、心身の健康作りを推進します。
- 3 社員の心身の健康の保持・増進への取組みにより、KDDIグループに「健康を大切にす文化」を定着させ、社員の活力と生産性の向上を追求します。

事例 6 地球環境保全への取り組み

KDDIは、2017年度から2030年度までの第4期環境保全計画 [KDDI GREEN PLAN 2017-2030] を策定し、着実に実行しています。本計画では、「地球温暖化対策」「循環型社会の形成」「生物多様性保全」の3つを重点課題とし、「2030年度のKDDI単体（国内）のCO<sub>2</sub>排出量を、2013年度比で7%削減」「使用済み携帯電話のマテリアルリサイクル率99.8%維持」などの具体的目標を定めています。これらの目標を達成するため、自社の環境負荷低減のほか、社会の環境負荷低減に寄与するICTサービスの提供、お客さま・社員と取り組む環境保全活動などを推進しています。

スポーツ協賛

KDDIは、auブランド価値向上の取り組みの一つとして、スポーツ競技や団体などとスポンサー契約を締結しています。スポーツ支援を通じて、地域社会やスポーツ界の発展に貢献するとともに、5Gをはじめとするさまざまな通信技術を活用したスポーツ観戦体験など、新しい体験価値を創造していきます。

サッカー日本代表チーム協賛

auはサッカー日本代表チームのサポーターズカンパニーです。また、アジア最終予選やAFCアジアカップを管轄するAFC(アジアサッカー連盟)、さらにEAFF E-1サッカー選手権などを管轄するEAFF(東アジアサッカー連盟)ともサポーターズカンパニー契約を締結し、サッカー日本代表を全面的に応援していきます。さらにauが持つ通信テクノロジーの力で、「あたらしいサッカー観戦体験」の創出に挑み、サッカー日本代表を全力で応援していきます。

日本eスポーツ連合 (JeSU) 協賛

auは、eスポーツ競技団体「日本eスポーツ連合 (JeSU)」のオフィシャルスポンサーです。eスポーツは身体的な特徴や性別に左右されず誰でも参加できる「ダイバーシティ」な競技であり、豊かなコミュニケーション社会の発展に貢献する取り組みの一環として、5Gサービスやauひかりなど、通信サービスのさらなる拡充を図り、日本におけるeスポーツの普及、若手選手の育成を支援していきます。



スポーツクライミング協賛

auは、スポーツクライミングの持つ「新しさ」や「自由さ」に共感し、さらなる新しい体験価値を生み出していきたいと考え、オフィシャルスポンサーとしてスポーツクライミングを応援しています。また、国内外の大会で輝かしい実績を残し、世界の頂点をねらう実力派のクライマーで構成された「TEAM au」を結成し、日本におけるスポーツクライミングを、子どもから大人まで多くの人が楽しめるメジャーなスポーツとして発展・普及させるべくサポートしていきます。

LEXUS TEAM TOM'S協賛

auは、国内最大のGTレース「SUPER GT」において、「LEXUS TEAM au TOM'S」をスポンサーしています。2019年も前年に続き、ドライバーの中嶋一貴、関口雄飛とともに「au TOM'S LC500」で念願のシリーズチャンピオン獲得を目指します。さらにauは、勝敗を左右する膨大なレースデータを、戦略を練るエンジニアリアルタイムに送信する通信インフラの支援も行っており、「LEXUS TEAM au TOM'S」とともに熾烈な戦いに挑んでいます。

## 研究開発



Research &amp; Development

## 新技術の開拓と社会実装により 豊かな未来を創出

KDDIは、世界トップレベルの技術の活用や多くのパートナーとの連携を通じた研究開発により、新技術の開拓と通信技術の高度化に挑戦するとともに、お客さまがワクワクできる豊かな社会の実現と社会課題の解決に貢献します。

### 世界一を目指した研究開発

#### 新たな世界の実現を目指し高度な目標への挑戦

2019年6月、KDDI総合研究所が参画する日本発の海底探査チーム「Team KUROSHIO」は、探査ロボットによる超広域高速海底マッピングをミッションとするコンペティション「Shell Ocean Discovery XPRIZE」に挑戦し、準優勝を収めました。これまでKDDIでは、自律型水中ロボットや水中音響通信など、海底ケーブル整備のための技術を培ってきました。コンペティションでは、これらの技術を生かした複数の水中ロボットを連携して運用する独自の探査技術で、超広域高速海底マッピングを成功させました。



▲無人洋上中継器。海中の自律型水中ロボットから得られたデータを衛星通信により送信する船舶型ロボット。衛星通信を介して遠隔操作が可能



▲結果発表セレモニーの様子 (XPRIZE財団およびTeam KUROSHIOメンバー集合写真)

### 通信の高度化のための研究開発

#### 4G・5Gの同一周波数帯内での共存による 高効率ネットワークの実現

KDDIは、5G時代を見据えた通信技術の研究開発を推進しています。2018年9月には4Gと5Gを同一周波数帯内で共存させるための新たなシステム間干渉抑制技術を考案し、実証実験に成功しました。これにより、4Gから5Gへの移行期において、より高効率な4G・5Gシステムの共存が可能となり、どちらかのシステムにユーザーが偏ることにより発生する周波数利用率の低下と通信品質の劣化を防ぐことが可能です。



### 社会課題解決のための研究開発

#### 安心・安全な通信の実現

KDDIは、通信の安全性確保のため、暗号技術の研究開発を積極的に推進しています。特に、既存の公開鍵暗号を現実的な時間で解読できる量子コンピューターの登場や、計算能力に制約のあるIoT機器の普及に対応するため、より安全で高速な次世代公開鍵暗号の研究に取り組んでいます。格子暗号の暗号解読コンテストで世界記録を樹立したことに加え、従来方式と比べて鍵生成処理が約1万倍、復号処理が約200倍高速な格子暗号の独自実装方式を確立しました。



#### AIを用いた運用自動化による安定した ネットワークの実現

KDDIは、安定した通信インフラの提供のため、通信ネットワークの運用自動化技術の研究開発に取り組んでいます。2018年7月には、総務省の研究開発課題「革新的AIネットワーク統合基盤技術の研究開発」を受託しました。5G時代にさらに複雑化するネットワークの設計・制御・運用に対して機械学習・AIを用いることで、多様化するサービス要件を満たしつつ、安定した通信インフラ提供を可能とするネットワーク運用技術の確立を目指します。



#### 自由で安全なモビリティ社会の実現

KDDIは、自由で安全なモビリティ社会を実現するため、自動運転技術の高度化を進めています。2019年2月には、国内で初めて、一般公道において5Gを活用した複数車両の遠隔監視型自動運転の実証実験に成功しました。低遅延・大容量な5Gの利用で、より安全に自動運転車の監視・制御を行うことが可能です。実験では、運転席を無人にした2台の自動運転車を、1名の監視者が遠隔から同時に監視し、緊急時には遠隔制御に切り替えて走行ができることを実証しました。



▲自動運転車両。5Gの低遅延・大容量通信により、時速30kmで安全に走行することが可能

社名	KDDI株式会社
創業	1984年6月1日
事業内容	電気通信事業
本社所在地	東京都千代田区飯田橋三丁目10番10号
本店所在地	東京都新宿区西新宿二丁目3番2号
代表取締役社長	高橋 誠
資本金	141,852百万円
社員数	41,996名 (連結ベース)

### 大株主

氏名又は名称	持株数(株)	持株比率(%)
京セラ株式会社	335,096,000	14.22
トヨタ自動車株式会社	298,492,800	12.67
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	217,873,800	9.25
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	128,821,400	5.46

(注) 当社は、自己株式176,630,845株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。  
なお、自己株式には役員報酬BIP信託及び株式付与ESOP信託が保有する当社株式(4,322,928株)を含んでおりません。

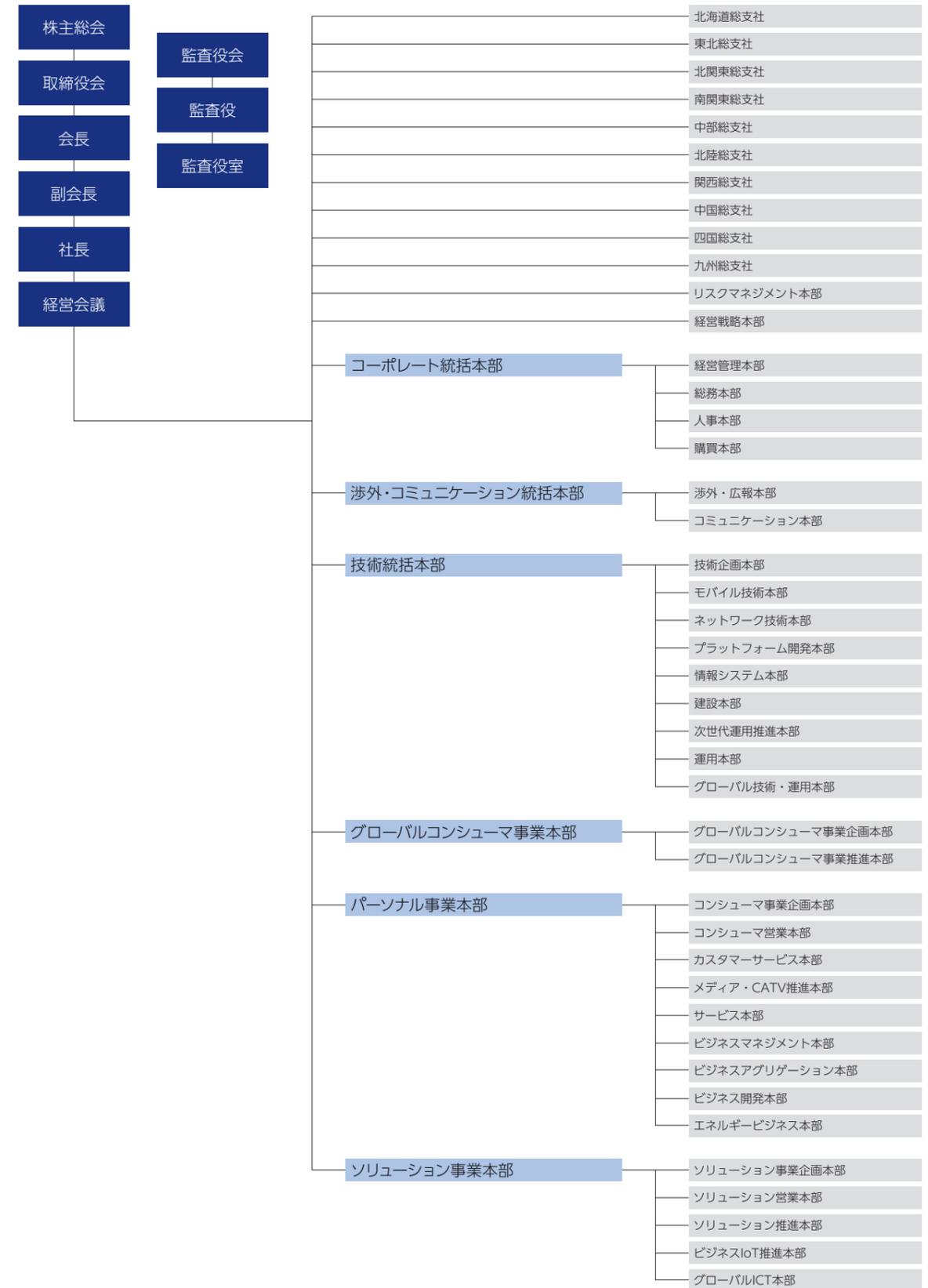
### 連結決算の状況 (IFRS)

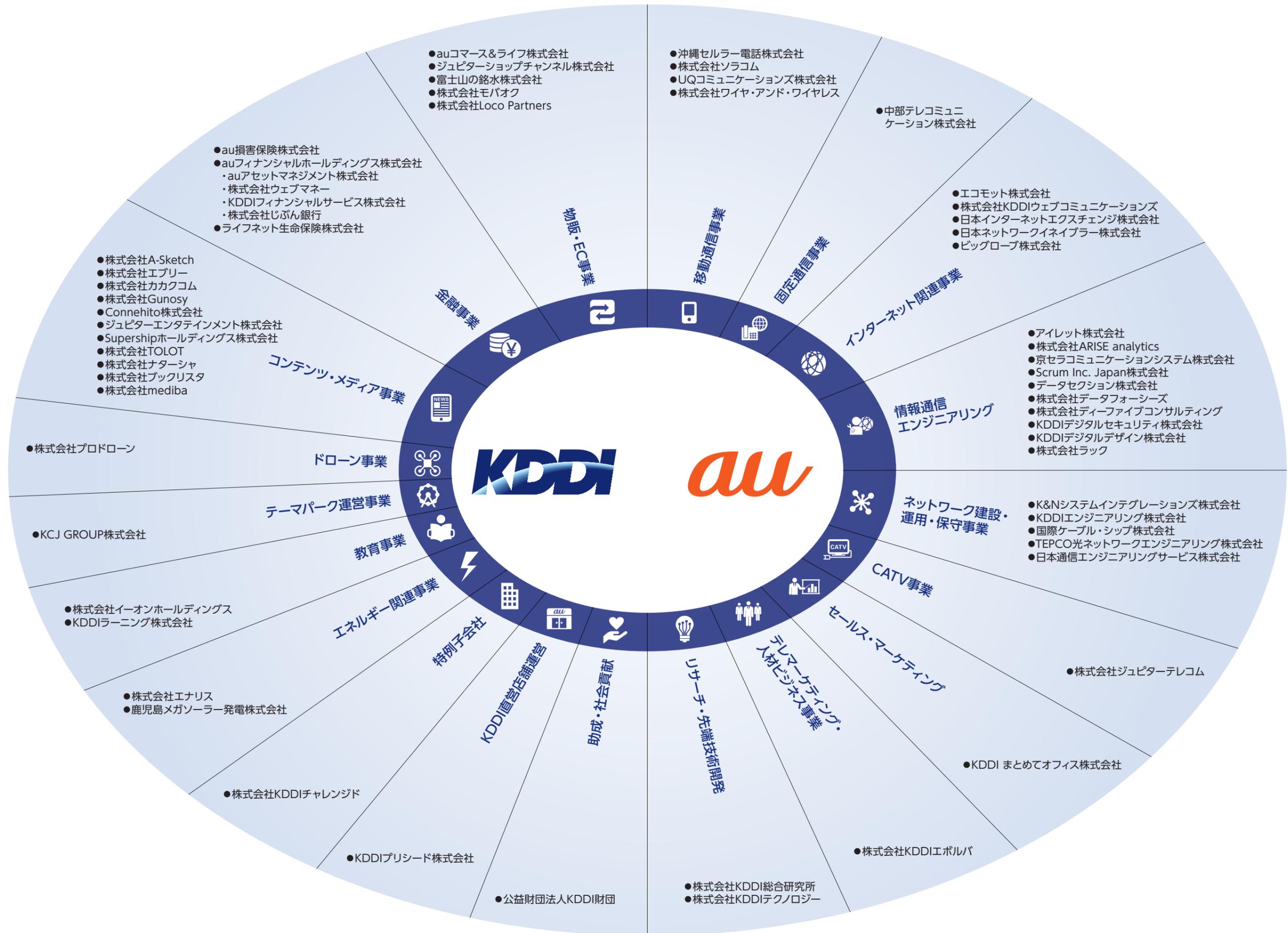
	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
売上高(百万円)	4,748,259	5,041,978	<b>5,080,353</b>
前期比(伸び率)	(+6.3%)	(+6.2%)	<b>(+0.8%)</b>
営業利益(百万円)	912,976	962,793	<b>1,013,729</b>
前期比(伸び率)	(+9.7%)	(+5.5%)	<b>(+5.3%)</b>

### 役員 (2019年6月19日現在)

取締役	代表取締役会長	田中 孝司	
	代表取締役副会長	両角 寛文	
	代表取締役社長	高橋 誠	
	代表取締役執行役員副社長	内田 義昭	
	取締役執行役員専務	東海林 崇	村本 伸一
		森 敬一	
	取締役執行役員常務	森田 圭	雨宮 俊武
	取締役	山口 悟郎 <sup>※1</sup>	山本 圭司 <sup>※1</sup>
		根元 義章 <sup>※1 ※3</sup>	大八木 成男 <sup>※1 ※3</sup>
		加野 理代 <sup>※1 ※3</sup>	
監査役	常勤監査役	石津 浩一	山下 章 <sup>※2 ※3</sup>
		山本 泰英	
	監査役	高野 角司 <sup>※2 ※3</sup>	加藤 宣明 <sup>※2 ※3</sup>

※1. 山口 悟郎、山本 圭司、根元 義章、大八木 成男、加野 理代は社外取締役です。  
 ※2. 山下 章、高野 角司、加藤 宣明は社外監査役です。  
 ※3. 取締役：根元 義章、大八木 成男、加野 理代及び監査役：山下 章、高野 角司、加藤 宣明は、株式会社東京証券取引所の有価証券上場規程第436条の2に規定する独立役員です。





1953年	3月	●国際電信電話株式会社(KDD)設立	2006年	1月	●総合音楽サービス[LISMO]開始
1984年	6月	●第二電電企画株式会社設立		6月	●東京電力とFTTH統合サービス「ひかりJone」(現 auひかり)提供開始
1985年	4月	●第二電電株式会社(DDI)発足		12月	●「CDMA2000 1x EV-DO」の拡張版「EV-DO Rev.A」を導入
	12月	●新電電の市外電話サービス接続番号決定(DDI→0077、TWJ→0070、JT→0088)	2008年	3月	●ワイヤレスブロードバンド企画を事業会社化し、UQコミュニケーションズ株式会社が発足
1986年	10月	●DDI、東京・名古屋・大阪間で専用サービス開始		7月	●三菱東京UFJ銀行と共同設立のモバイルネットバンク「じぶん銀行」が開業
1987年	3月	●日本移動通信株式会社(IDO)設立		10月	●国内外のデータセンターブランドを「TELEHOUSE」に統合
	9月	●新電電3社、東京・名古屋・大阪間で市外電話サービス開始	2011年	2月	●KDDIまとめてオフィス株式会社設立
1988年	12月	●IDO、東京23区内でハイキャップ方式の自動車電話サービス開始		5月	●あいおいニッセイ同和損保と共同設立のモバイル損害保険「au損保」開業
1989年	5月	●IDO、携帯電話「ハンディフォン」サービス開始		8月	●事業共創プラットフォーム「KDDI∞LABO(ムゲンラボ)」スタート
1992年	12月	●DDI、全国サービスネットワークが完成	2012年	2月	●コーポレート・ベンチャー・キャピタル「KDDI Open Innovation Fund」を設立
1994年	6月	●IDO、PDC方式のサービス開始		3月	●「auスマートバリュー」「auスマートパス」提供開始
1997年	3月	●DDIとIDO、共同でCDMA方式の導入を決定		9月	●次世代高速通信サービス「au 4G LTE」提供開始
	7月	●インターネット接続サービス「DION」(現 au one net)開始	2014年	3月	●プラチナバンド800MHz「4G LTE」の実人口カバー率が99%に到達
1998年	12月	●KDDとTWJが合併、「KDD株式会社」発足		5月	●「au WALLET」サービス開始
1999年	4月	●IDOとDDIセルラーグループ、cdmaOne全国シームレスネットワーク完成		7月	●LTE-Advanced技術「キャリアアグリゲーション(CA)」を提供開始
		●IDOとDDIセルラーグループ、インターネット接続サービス「EZweb」「EZaccess」開始		7月	●ミャンマー国営郵便・電気通信事業体(MPT)と協業し、共同事業を開始
2000年	7月	●IDOとDDIセルラーグループ、全国統一の移動体ブランド「au」開始		12月	●次世代音声通話サービス「au VoLTE」提供開始
	10月	●DDI、KDD、IDOが合併、「株式会社ディーディーアイ」(KDDI)発足	2016年	4月	●auの電気サービス「auでんき」提供開始
	11月	●DDIセルラーグループ7社が合併、「株式会社エーユー」発足			●金融サービス「auのほけん・ローン」提供開始
2001年	4月	●「KDDI株式会社」に社名変更		8月	●会員制プログラム「au STAR」開始
	10月	●株式会社エーユーを合併	2017年	7月	●携帯端末代金と通信料金を分離した新料金プラン「auピタットプラン」「auフラットプラン」提供開始
2002年	4月	●第3世代携帯電話サービス(CDMA2000 1x)開始			●家庭向けIoTサービス「au HOME」提供開始
	12月	●「着うた®」サービスを開始	2018年	1月	●IoT通信「KDDI IoTコネク ト LPWA」の提供開始
2003年	10月	●光ファイバーサービス「KDDI光プラス」(現 auひかり)開始		9月	●デジタルビジネスの開発拠点「KDDI DIGITAL GATE」を東京(虎の門)にオープン
	11月	●au design project第1弾「INFOBAR」を発売	2019年	2月	●中間金融持株会社「auフィナンシャルホールディングス株式会社」設立、スマートマネー構想が始動
		●CDMA2000 1x EV-DO方式を利用した第3世代携帯電話サービス「CDMA 1X WIN」開始		4月	●スマホ決済「au PAY」提供開始
2004年	10月	●「KDDI光ダイレクト」(法人向け)サービスを開始		5月	●ブランドスローガンを一新「KDDI: Tomorrow, Together」「au: おもしろいほうの未来へ。」
	11月	●EZ「着うたフル®」の提供を開始		7月	●日本初、データ容量上限なしの料金プラン「auデータMAXプラン」提供開始
2005年	2月	●「KDDIメタルプラス」サービスを開始			
	10月	●CATVと連携した固定電話サービス「ケーブルプラス電話」を開始			

# KDDI株式会社

<https://www.kddi.com/>



「着うた®」「着うたフル®」は、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。